教育

地域と学ぶ ▶②

山形大地域教育文化学部

スポーツ通じ交流を実現

スポーツ文化論（武道論）　竹田隆一教授

▽1956年生まれ、秋田県出身。山形大着任は84年。

台湾の学生と西川町民の交流会
＝2014年１月、西川町・西川交流センターあいべ

山形大地域教育文化学部と台湾の台湾師範大運動・レジャー学院は、２０１０年に交流協定を締結した。台湾師範大の林伯修准教授の「雪を知らない台湾の大学生にスキーを体験させたい」という情熱、「国際交流で町を活性化させたい」という西川月山郵便局（西川町）の近松和郎局長の情熱により、12年に西川町で台湾師範大の授業プログラム「スポーツ・ツーリズム」が実現した。

初年は20人の参加者だったが年々増加し、昨年は60人を超えた。このプログラムでは、スキーやスノーシュートレッキング、スノーモービル、そりなどのスポーツを中心に、そば打ちや和菓子作り、茶道、華道などの日本文化体験、町民との交流会を内容としている。本年度も履修を開始し、1週間もしないうちに定員に達した人気の授業となっている。

西川町と本学部の交流は、同町で開かれている「月山杯争奪剣道大会」での学生による審判協力がきっかけだった。現在では「スポーツ・ツーリズム」だけでなく、本学基盤教育のスポーツ実技「自然スポーツ」（カヌー、月山トレッキング、フィッシング、サイクリングを行う2泊3日のプログラム）でも交流。さらに昨年からは地域貢献をテーマにした本学部の中心科目「フィールドプロジェクトF」でもつながりがあり、本年度は西川町の「六十里越街道開き　わらじ奉納祭」を対象としたフィールドワークなどを実施し、年々、交流は拡大している。

大学教育において国際交流と地域交流が叫ばれて久しい。スポーツがその実現に貢献していることに、スポーツの多様な可能性を再認識するとともに、このような大きな事業は、個人の情熱からスタートすると強く感じている。今後は広く町民の理解を得て、多くの人々が参加してくれることを期待したい。

＝月1回掲載します